

イネカメムシ等による 不稔(しいな粃)の被害が問題になっています!!

不稔によって穂が垂れない稲 (乳熟期)



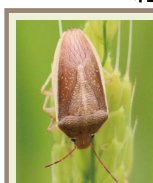
イネカメムシ

アルバリン® 粒剤 粉剤DL 顆粒水溶剤



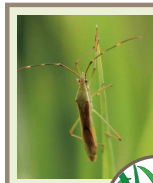
健全な稲 (乳熟期)

雑木林から直接飛来



イネカメムシ

体長: 12~13 mm
分布: 福島県以南
発生: 1~2回/年
増殖: 水田内で産卵



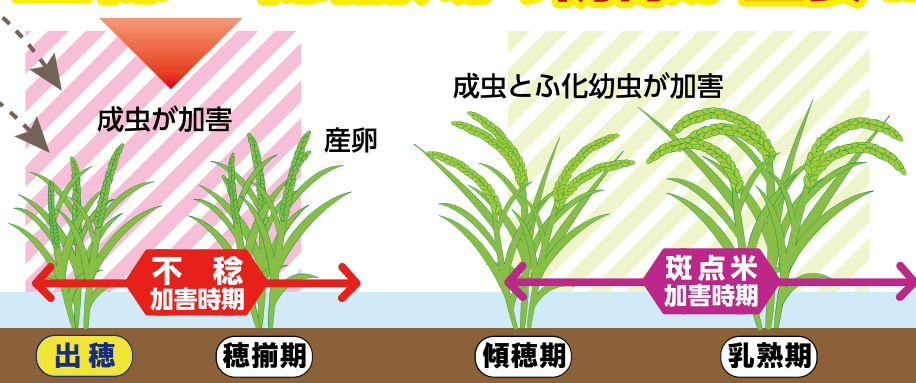
クモヘリカメムシ

体長: 15~17 mm
分布: 岩手県以南
発生: 2~3回/年
増殖: 周辺イネ科雑草
及び水田内で産卵



イネ科雑草から飛来

水稻不稔でのカメムシ防除は 出穂～穂揃期の防除が重要!!



1回目 不稔対策

粒剤

または

顆粒水溶剤・粉剤

イネカメムシ防除

斑点米カメムシ防除のタイミングより早めの散布が必要です!!

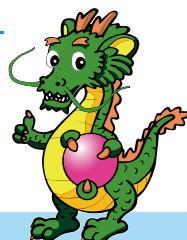
2回目 斑点米対策

粒剤

または

顆粒水溶剤・粉剤

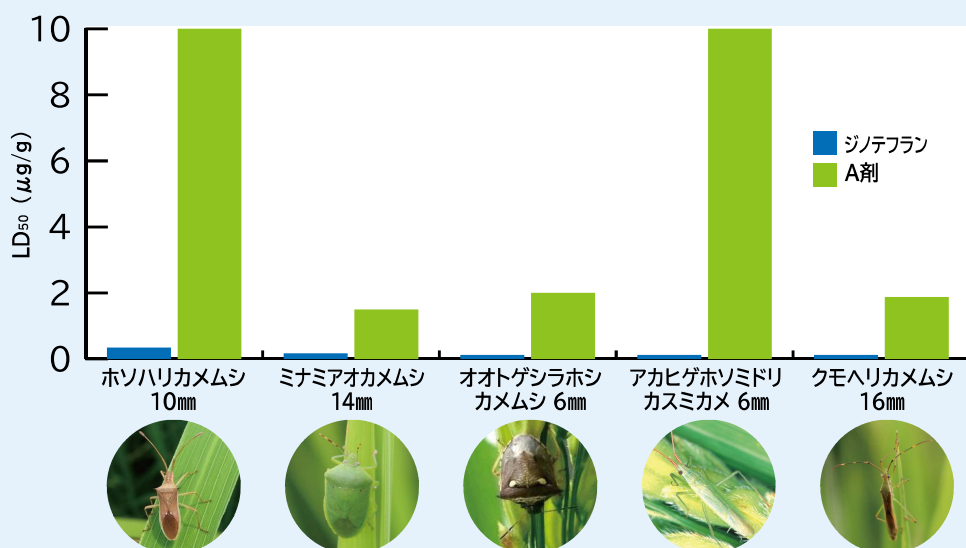
イネカメムシ防除には、①不稔対策、②斑点米対策として2回の防除が必要です。カメムシの薬剤感受性低下を回避するために系統の異なる薬剤との体系処理をおすすめします。



試験事例

アルバリンは大型カメムシに対しても高い活性を示します

◆各種カメムシに対する基礎活性



MCCLS 社内試験 (1999 年)
供試薬剤: ジノテフラン (原体)
A 剤 (原体)
試験方法: 供試薬剤をアセトン溶液とし、マイクロシリンジを用いて 3 齢幼虫に局所施用。処理 5 日後の LD₅₀ 値を算出。

値が低い方が
効果が高いよ



「ジノテフラン」はアルバリンの有効成分です

稲での使用方法

■ジノテフラン各種製剤の登録内容

令和 7 年 6 月末現在

製剤名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
粒剤	イネミズゾウムシ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4 回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
粉剤 DL	カメムシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネドロオイムシ ニカメイチュウ					
	イナゴ類 フタオビコヤガ					
顆粒水溶剤	カメムシ類	2000 倍 (60 ~ 150ℓ/10a)				
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3000 倍 (60 ~ 150ℓ/10a)				

⚠️注意事項 (抜粋)

- [粒 剤] ●本剤を水稻に使用する場合には、湛水状態 (3cm 程度) で田面に均一に散布し、4 ~ 5 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水やかけ流しをしないでください。
- [顆粒水溶剤] ●使用量にあわせ薬液を調製し、使いきってください。
- [粉剤 DL] ●本剤はできるだけ飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を 1 目盛程度しぼって散布してください。
- 散布の際は農業用マスクなどを着用してください。作業後はうがいをしてください。
- [3 製剤共通の注意事項]
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
- ①ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
- ②関係機関 (都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等) に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。

魚毒性等…水産動植物 (甲殻類) に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
散布後は水管理に注意してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保 管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

●使用前にはラベルをよく読んでください ●ラベルの記載以外に使用しないでください ●小児の手の届く所には置かないでください

AGRO-KANESHO

AK25G01 (アルイネカメ)